

主 題：あなたは愛されている

聖書箇所：ローマ人への手紙 5章6－11節

罪赦されて救われることがどんなに幸いなことかを、みことばは繰り返し教えています。先週から、“救われた者に与えられる祝福”を学んでいます。

1. 神との平和が与えられた。
 2. 神との交わりが与えられた。
 3. 神からの希望が与えられた。
- 今週も続いて見て行きましょう。

4. 神からの保証が与えられた 5-10 節

5 節に「この希望は失望に終わることがありません。」とありますが、「失望に終わらない」とは「辱めを受けることはない」という意味です。神の約束は必ず成るというパウロの確信です。そして、続いて「なぜなら」とその根拠についてパウロは述べています。「私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」と、それは神の愛であるとパウロは言います。ここで、神によって愛されている事実について見てゆきます。

(1) 経験によって知る

信仰生活の歩みにおいて神の愛を味わうことです。それは私たちに与えられた聖霊によってです。「注がれている」とは、泉が水をわきだすように、神の愛が私のうちに継続して与えられるということです。神は私に慰め、励ましを常に与えてくださるのです。多くの信仰者がこの神の愛を経験しています。その証を私たちはいろいろな場面で見ます。特に困難の中にあっても、神が私を愛してくださるという神の真実は私たちを圧倒します。あのハドソン・テラーは「すべての困難は主の愛が示される舞台である」と言っています。エペソ 3：16-19 には「どうか父が、その栄光の豊かさに従い、御霊により、力をもって、あなたがたの内なる人を強くしてくださいますように。こうしてキリストが、あなたがたの信仰によって、あなたがたの心のうちに住んでいてくださいますように。また、愛に根ざし、愛に基礎を置いているあなたがたが、すべての聖徒とともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力を持つようになり、人知をはるかに越えたキリストの愛を知ることができるよう。こうして、神ご自身の満ち満ちたさまにまで、あなたがたが満たされますように。」とあります。救われた私たちは愛に根ざし、愛に基礎を置いていると言います。ですから、内なる聖霊の働きによって、神に愛されていることを確信して生きて行くのです。もし今、喜びや感謝を失っているなら、絶望の中にあるなら、神に愛されているという事実を忘れているのです。救われた者のうちには神の愛が宿っているのです。

(2) 神の真理（みことば）によって知る

ローマ 5：6「私たちがまだ弱かったとき、キリストは定められた時に、不敬虔な者のために死んでくださいました。」と、この箇所から神は私たちにたくさんのことを教えてくれます。

- 1) 私は無力な者。「私たちがまだ弱かったとき」、これは肉体的弱さを指しているものではありません。道徳的弱さです。自分の力では自分を救うことも、どうすることもできない、その弱さです。かつての私たちは死に対しても無力でした。サタンの力、永遠のさばきにも無力だったのです。
- 2) 不敬虔な者。これは「罪深い者、醜い者」という意味です。ローマ 1：18「というのは、不義をもって真理をはばんでいる人々のあらゆる不敬虔と不正に対して、神の怒りが天から啓示されているからです。」、そして、21-23 節にはその罪が示されています。まことの神を信じないことと、偽りの神を信じ仕えるという罪です。また、28 節には、神の望んでいることを無視して、してはならないことを平気でする、とあります。
- 3) 神の犠牲。「不敬虔な者のために死んで」とは、私たちの身代わりとなってということです。私たちは神の犠牲をいただくのにふさわしい者であったからではなく、神の一方的な恵みによって成された行為なのです。
- 4) 定められた時に。神の知恵がここに示されています。すべて神の計画のうちにあったのです。「定められた時」とは「正しい時」と訳すことができます。神がイエス・キリストをこの世に送ってくださったこの時は、神がよしとされた時なのです。神の預言のとおりイエスは来られ、聖書が示すとおりに、私たちの身代わりに十字架上で死んでくださったのです。みことばに明らかなです。完全な知恵の神がそ

の通りに成されたのです。使徒 2:23 に「あなたがたは、神の定めた計画と神の予知とによって引き渡されたこの方を、不法な者の手によって十字架につけて殺しました。」とあるとおりです。

ここで、「神の愛について」見てみましょう。

7,8 節には、比類のない神の愛を人間の愛と比較して書かれています。

1) 人間の愛 7 節

7 節の「正しい人」とは、正義を重視し正しいことをして行こうとしている人です。「情け深い人」は他の人に情けをかける人です。しかし、どんなに立派な人でも、人のためにいのちを捨てることは難しいことだといえます。しかし、神の愛はどうでしょう？

2) 神の愛 8 節

「私たちのために死んでくださった」愛です。これは神しか持ち得ない愛です。愛する価値のない者を愛してくださるのが神なのです。そして、

3) 愛されている保証 9,10 節

「ですから、今すでにキリストの血によって義と認められた私たちが、彼によって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。もし敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させられたのなら、和解させられた私たちが、彼のいのちによって救いにあずかるのは、なおさらのことです。」

この保証は、a) さばきから永遠に訣別したこと、「神の怒りから救われる」のです。「キリストの血」とは「いのち」です。「によって」とは、私たちの働き、わざではないことをいいます。「キリストのいのちによって神との和解がなされた」のです。罪赦されたからもう神のさばきはないのです。そして、「なおさら」というのは、ある偉大なものからそれより劣るものへと話を展開してゆくのです。神はこのようなすばらしい救いをなしてくださった、だから、私にはさばきはないということです。神の保証は永遠に変わらないということです。b) イエスのいのちを得た。彼のいのちによって救いにあずかります。イエスにある永遠のいのちが私に与えられたから、私も永遠に生きるのです。永遠のいのちが保証されている、そして、神とともに永遠に生きるのです。

5. 神からの喜び 11 節

神が与えてくださった祝福の最後、五つ目は喜びです。「そればかりでなく、私たちのために今や和解を成り立たせてくださった私たちの主イエス・キリストによって、私たちは神を大いに喜んでいるのです」。罪赦された私たちは主イエス・キリストの和解の働きを喜びます。イザヤ書 45:21,22 にはこのように書かれています。「告げよ。証拠を出せ。共に相談せよ。だれが、これを昔から聞かせ、以前からこれを告げたのか。わたし、主ではなかったか。わたしのほかに神はいない。正義の神、救い主、わたしをおいてほかにはいない。地の果てのすべての者よ。わたしを仰ぎ見て救われよ。わたしが神である。ほかにはいない。」と。わたしのほかに救い主はいないと神ははっきりいわれます。そして、約束通り、神は救い主を送ってくださったのです。そのことを私たちは喜ぶのです。

⇒神は いわれます、恐れることはない。神は愛をもって私たちに最善をなしてくださいます。このクリスマスのとき、私たちは心から主を誉め称えましょう。